



## 1、飛鳥時代から奈良時代へ

前号では、飛鳥時代の信仰について執筆させていただきました。本号では、奈良時代に焦点を当てて、信仰の歴史を紐解いていきたいと思えます。

奈良時代になると都は平城京に遷都され、貴族・仏教を中心とした天平文化が花開きます。また、次々と日本最古の書物（歴史書や地理書など）が生まれることも特徴です。

なお、信仰に関する主な出来事として、中国から鑑真が来日します。鑑真は、仏教において守らなければならない道徳や規則（戒律）を日本に伝え僧侶に位を授ける役目も担います。その他、聖武天皇は、仏教の力を用いて国を治めようと、日本全国にお寺（国分僧寺・国分尼寺）を建立し、奈良の東大寺に日本最大の大仏を造ります。現在でも日本全国に建立したお寺の跡地には地名などに名残が刻まれています。

## 2、宇佐八幡宮神託事件

奈良時代に、皇室が途絶える恐れがあった大事件が勃発します。

称徳天皇（前 孝謙上皇）の病を治したという事で信頼を得た道鏡（禪師）は、瞬く間に出世し、太政大臣から法王に任ぜられました。769年、宇佐八幡宮から「次の天皇を道鏡に継がせれば天下は太平になる」との神からお告げがあったとありますが、その後、そのお告げは嘘であったことが発覚します。一連の騒動を受けて、称徳天皇は次の天皇は自ら選択して決めると宣言し、道鏡が天皇になることはありませんでした。

この事件は日本書記や続日本書記に記録されていますが、研究者の中では諸説あり、道鏡以外の陰謀説も指摘されています。いづれにせよ、神のお告げが天皇をも交代できる力があつたことが伺えます。

## 3、宇佐八幡宮とは

大分県宇佐市にある神社で、社伝によれば欽明天皇時代に、鍛冶翁が降り立ち、「八幡麻呂（応神天皇を指す）が護国の大菩薩である」とお告げがあり、八幡神を祀る神社として成立しました。

以後、伊勢神宮を凌ぐ程の崇拜される神社として繁栄していきます。

710年	元明天皇が都を平城京（奈良県奈良市付近）に遷都する。
712年	日本最古の歴史書『古事記』が作られる。
713年	稗田阿礼・太安万侶より、日本最古の地理書『風土記』が作られる。
720年	舎人親王らにより、『日本書紀』がつくられる。
723年	三世一心法が施行される。
724年	聖武天皇が即位する。
741年	各国に国分僧寺と国分尼寺が建立される。
743年	墾田永年私財法が施行される。
751年	日本最古の漢詩集『懷風藻』が作られる。
752年	奈良の東大寺に大仏ができる。
753年	鑑真が来日して唐招提寺が建立される。
757年	養老律令が施行される。
763年	鑑真が死去し日本最古の彫刻が作られる。
765年	道鏡（禪師）が太政大臣となり、翌年、法王に任ぜられる。
770年	宇佐八幡宮神託事件により道鏡が失脚する。

図1 奈良時代の主な出来事